



■木骨(もっこつ)キャブの出来るまで



まずは、骨格を製作。何も無い状態からここまで造るのが腕の見せ所。



このくらいの作業スペースが必要となります。周りには木工用工作機械です。



斜め後ろからの状態。背面やコーナーも当然木製。



中央に2本立てかけてあるパーツを、前の写真のコーナー部に取付けます。



シャシに載せたばかりの状態。シャシの再生にもかなりの手間がかかっています。



キャブのコーナー部に先ほどのパーツが取付けられているのが分かります。



背面の様子。背窓は現在より大きく感じます。ここに入れるガラス切りも仕事のひとつ。



叩いては合わせ、合わせては叩くという、鍍金の極致のような作業が続きます。



リヤボディをマウント。実はこだわりのボディで当時のままを再現。クラシカルです。



運転席まわり。懐かしのダルマヒーターが見えます。メーターやスイッチも当時のままです。



ライトやフロントグリルを仮付けしました。長いフェンダーミラーが特徴です。



ボンネット内部の様子。エンジンはとてもシンプル。ドライバーは自分で整備できました。



塗装完了。ここまでくればあとひといき。ここでリアバンパーを取付します。



ライトやグリル、ターンランプやエンブレム。ヤマダのモール等を取付け、完成です。



ここが木骨キャブの展示スペースです。興味のある方は是非お訪ねください。

